

(様式1)

平成29年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

学校整理番号	28
学 校 名	百石高等学校
全日制課程	校舎 ・ 分校

自己評価実施日	平成 30 年 1 月 29 日(月)
学校関係者評価実施日	平成 30 年 2 月 13 日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
保護者 1 名、学校評議員 3 名 計 4 名

(1) 学校教育目標	1 明るく健康で、礼儀正しい生徒の育成 2 自分で目標を定め、それに向かって専心努力する生徒の育成 3 新しい時代を切り拓く、心豊かで、逞しい生徒の育成
------------	--

(2) 現状と課題	本校生徒は基礎学力が定着していない生徒が多いことから学習意欲も高くはなく、高校生活の目的意識や進路意識も薄い。したがって、普通科における特色ある教育活動の推進と進学指導体制の整備が課題である。また、食物調理科においても取得資格を活かした進路選択ができるよう、キャリア教育の充実を図ることが課題である。
-----------	--

(3) 重点目標	1 特色ある教育活動の推進(魅力ある百石高校の創造)
	2 授業の充実(授業第一主義「分かって、できて、おもしろい授業」)
	3 生徒指導の充実(秩序と活気のある学校生活、安心して学べる環境づくり)
	4 キャリア教育・進路指導の充実(生徒全員の進路志望の実現)

(4) 結果の公表	本報告書を学校ホームページに掲載するとともに、次年度のPTA総会で保護者に公表する。
-----------	--

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	①生徒主体の体験、対話、交流を重視した教育活動 ②高校生レストランの安定的運営 ③学校のアピールポイントを洗い出し、積極的に情報発信	①各学科の特色を生かした教育課程を編成する。 ②食物調理科に関係する全ての教師の協力により高校生レストランを運営する。 ③学校HP、報道等へ情報発信する。	①新しい教育課程を開始して2年目となる。2年に対し類型選択説明会を実施した。外部機関と連携した教育活動を多数実施した。 ②年8回運営し、「産地地消給食等メニューコンテスト」にて農林水産省食料産業局長賞を受賞した。 ③HPの更新や新聞・テレビ・雑誌・町広報等へ学校情報が多数掲載される。	A	①百石高校の特徴として「高校生レストラン」「成人式おもてなし料理」は注目されている。②授業公開等の保護者参加者数が少ないので、学校HP等を利用し情報発信の工夫が必要。	自治体、企業と連携し、より効率的な高校生レストランの運営を工夫する。生徒を通じて授業公開等の案内配付の他に、学校HPを利用した案内等工夫し、開かれた教育課程を加速させる。
2	①基礎学力の向上 ②アクティブラーニング型学習の推進 ③探究型学習の充実	①生徒の学力差に対応するため教科・学年と連携し、少人数指導やティームティーチングなどの授業を行う。 ②協働的な授業でのICT機器の活用を促し、機器を適切に管理する。 ③地域における実態調査・報告や地域課題等をテーマにした学習活動の実践	①6科目でティームティーチングや習熟度またはグループによる少人数授業を実施した。 ②殆どの教員がAL型授業を実施。プロジェクターに加え、タブレットの授業での利用が増えた。 ③総合学習の時間を利用し地域課題等の学習活動を実践し、町長とのフレッシュトークを行いまちづくりへの関心を高めた。	A	①多様な生徒が存在するので少人数指導、T等の授業を行い学力差に対応してほしい。 ②今後も、おいらせ町の支援により購入したタブレット、プロジェクター、スクリーンを利用しAL型授業を推進してほしい。	今年度実施したユニバーサルデザイン型授業研修を来年度も継続実施し、多様な生徒に対応したきめ細かな授業ができるよう授業改善を促進する。
3	①挨拶の指導 ②部活動の活性化 ③思いやりある人間関係作り、生徒の傾聴力を高める。 ④教育相談体制の充実	①挨拶や会釈の習慣を育成する。 ②1年生を全員加入とし参加率は高い。 ③他人を思いやり命を大切にする心を育む対話集会を実施。 ④毎月、学年主任との気になる生徒の情報共有を行う。SC、SSW等の外部人材の利用。	①挨拶をする生徒は次第に増えているが、まだ自ら積極的に挨拶する割合は低い。 ②2・3年生でも部活動加入率は高く70%以上。各部とも活発に活動し、良い成績を収めることができた。 ③人を思いやる心、自分の悩み・思いを伝える大切さを、外部講師を招聘するなど多様な機会を設定し学んだ。 ④ほぼ毎月実施。SCの利用回数が増加した。SSWによる教員研修を実施した。	B	①少しずつでも部活動を盛り上げ中学生へのアピールをしてはどうか。②「いのちを大切に」する心を育む対話集会に参加しとても良かった。来年度もできるなら継続してほしい。③SC、SSW等の外部専門家を利用し多様な悩みを持った生徒へ決め細やかに対応してほしい。	今後も部活動加入を奨励し、活動を通して高校生活を充実させていきたい。来年度も生徒・保護者に寄り添ったきめ細かな指導を継続する。
4	①系統的なキャリア教育 ②地域資源を活用したキャリア教育 ③資格取得支援	①学校全体で取り組むキャリア教育の推進 ②地元企業研究会(1年)・見学会(2年)・合同就職説明会(3年)、外部関係者模擬面接指導(3年)を実施。 ③おいらせ町からの半額補助(一部の検定は全額補助)を説明し受検を勧める。	①3年間を通したキャリア教育が計画・実施され、学校全体の取り組みとして定着した。 ②地元の約10事業所が参加。今年4月に就職した卒業生も社会の先輩として、職場の魅力や仕事の楽しさ、大変さなどを伝えた。 ③10種の検定試験に延べ585人が受験、304人が合格した。	A	①3年間を見通した系統的なキャリア教育により「自分で目標を設定できる人間」を育てて欲しい。②様々な学校行事の経験を通し、リーダーシップのある生徒の育成をお願いしたい。③おいらせ町からの支援を利用し積極的に資格取得にチャレンジして欲しい。	地元企業、地元大学、後援会、PTAOB会等の地域資源を活用したキャリア教育を推進し、地元への就職・進学を推進したい。来年度もおいらせ町からの支援を利用し、各種資格取得者を増やす指導を続けたい。

(11) 総括	3年間を見通した系統的なキャリア教育により、地元への進学・就職が促進され良好な結果につながった。おいらせ町からの支援を利用し積極的に資格取得にチャレンジする生徒が増え、高校生レストランも昨年と変わらず評判が高く安定的な運営ができた。これらの成果を学校HP等を使って積極的に情報発信し、魅力ある百石高校、開かれた教育課程を一層推進する。
---------	---